

令和6年度



川口市立芝中学校

第3学年

各教科シラバス

(学習目標・学習計画・学習内容・評価規準等)

学習案内（シラバス）とは

学習案内（シラバス）とは、各教科の学習の目標、学習の内容、評価の観点と方法などについてまとめたものです。生徒のみなさんには、より効果的に学習をすすめるために、また、保護者の方々には、本校の教育活動のより深い理解に役立つものです。

学習指導要領の基本的なねらいとは

令和3年度から全面実施となっている中学校学習指導要領では、子供たち一人一人が、社会に主体的に向き合い関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、あらゆる他者を価値ある存在として認め、共に協働できるなど、幸福な人生の作り手及びよりよい社会の作り手となっていけるようにすることを重要視しています。

学習指導要領が目指す評価とは

評価は、子どもたちに、学習指導要領が目指す力をどの程度身に付けているかという学習状況を示すとともに、子どもたちのよさや可能性を引き出し、学習意欲を高めさせるためのものです。

※観点別評価の評価内容

①知識・技能

⇒ 各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

②思考・判断・表現

⇒ 各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

③主体的に学習に取り組む態度

⇒ 知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

＊「粘り強い取り組み」とは、その取り組みが、教科の達成すべき目標に向かっている姿を意味しています。

＊「学習を調整する」とは、課題解決に向けた学びの方向を見通すこと、学びの方向を必要に応じて修正すること、学習成果として何が大切か否かを振り返ること、理解・表現した内容が妥当か吟味すること、他者と協働して最善解や納得解に向かうこと、課題解決に向けて自らを問い直し、問い続けること、などを意味しています。

＊学習指導要領とは・・・

！ 全国のどこで教育を受けても、一定の水準の教育が受けられるようにするため、それぞ
！ れの学校のカリキュラムを編成する上での規準となるものが、学習指導要領です。

通知表の見方について

本校では、生徒が学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を充実させるために、次のように評価・評定を行います。

1 教科の評価・評定について

（1）観点別評価

① 学習単元・内容ごとにA B Cの3段階で絶対評価をします。

② 評価規準

『A』…十分に満足できると判断されるもの

『B』…おおむね満足できると判断されるもの

『C』…努力を要すると判断されるもの

（2）評定

① 学期ごと及び学年で5段階評定をします。

② 評価規準

『5』…十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの

『4』…十分満足できると判断されるもの

『3』…おおむね満足できると判断されるもの

『2』…努力を要すると判断されるもの

『1』…一層努力を要すると判断されるもの

（3）評価の素材

ペーパーテスト（定期テスト、単元テスト、小テスト）、レポート、ノート、ワークシート、ワーク、実験、実技テスト、作品、授業の観察（態度、挙手、発言、発表、忘れ物、係の仕事、片付け等）、話し合い活動（グループでの協議、スピーチ、ディベート、ディスカッション）、提出物、生徒の自己評価や相互評価などで評価します。



2 総合的な学習の時間の評価・評定

(1) 学習活動

課題の設定、調査活動、体験活動、発表活動等

(2) 評価の観点

- ①明確な学習のねらいを持っている。
- ②学習を通して興味関心を一層深めることができた。
- ③学習を通して自分なりの考えを持つことができた。

(3) 評価…文章表記による評価をします。

芝中学校の重点目標

全国学力学習状況調査・埼玉県学力学習状況調査の分析を受け、本校では今年度、下記の項目に重点的に取り組みます。

- ① 授業形態を工夫し、話を聞き発表する力を高める。特に、自分の考えをしっかりと自分の言葉で伝えられる表現力や、周囲との良好な関係を構築していくためのコミュニケーション能力の向上を図る。
- ② 教科の系統性(=学習内容が何につながり、どのようなことに役立つか。)を明確にし、学習意欲や興味関心を高める。
各教科の「3 身に付けさせたい力」の欄に、授業で実施していく具体的な取り組みを記載しました。(★の部分)お読みください。

国語科 第3学年 シラバス

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 学習のアドバイス

- ① 見通しをもって学習に取り組み、学習の最後に振り返ったことを次の学習につなげよう。
- ② 授業では積極的に発言しよう。また、友達の発言はしっかり聞こう。
- ③ 提出物などの課題は期限を守って提出しよう。
- ④ ノートは、板書を写すだけでなく、自分で工夫しながら作ろう。
- ⑤ 進んで読書しよう。

3 身に付けさせたい力

- ① 国語を適切に表現する力
 - ② 国語を正確に理解する力
 - ③ 国語を伝え合う力
- ★話を聞き発表する力を育てる取り組み
・ペアや班での話し合い活動を行う。

4 評価の観点、評価基準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価基準	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力養い、社会生活における人との関わりの中で伝え厚力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。

評価方法	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 (1)～(3)を評価する方法 ○テスト ○提出物	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと A～Cを評価する方法 ○テスト ○提出物	①・②の観点にある活動を粘り強い取り組みをもって行おうとする側面と、自らの学習を調整しようという側面を評価する方法 ○授業中の観察 ○授業の振り返り ○ワークシート ○提出課題の内容
------	--	---	---

計画

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	握手	○1年間の学習の見通しをもつ。 ○作品の設定を捉え、登場人物の人物像や心情を読み取る。	① 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。
			② 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。
			③ 粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。
話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(知・技)	〔聞く〕評価しながら聞く	○評価しながら聞く練習をする。	① 情報の信頼性の確かめ方を理解し、使っている。
			② 「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。
			③ 聞き取った内容や表現のしかたを進んで評価し、今までの学習を生かしてメモしようとしている。
文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表)	学びて時に之を習ふ ー論語ーから	○「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 ○日常生活や自分の生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。	① 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。
			② 「読むこと」において、孔子の人間の生き方に関する考えを、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。
			③ 人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。

目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表)	情報整理のレッスン 情報の信頼性 文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する	○情報の信頼性の確かめ方を理解する。 ○題材を選び、その題材に関する情報や図表、写真を集めて「修学旅行記」を編集する。	① 文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ② 「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 ③ 進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し文章にまとめようとしている。
文章の種類を踏まえ、論理の展開を捉えることができる。(思・判・表)	作られた「物語」を超えて	○筆者の問題意識(話題)を捉える。 ○筆者の主張と論理の展開を捉える。	① 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 ② 「読むこと」において、論説の特性を踏まえ、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 ③ 進んで文章の構成や論理の展開のしかたについて評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。
自分の立場を明確に説明し、相手を納得させるための論理を構成する工夫をすることができる。(思・判・表)	思考のレッスン 具体化・抽象化 説得力のある構成を考えよう スピーチで社会に思いを届ける 資料リオのスピーチ	○具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。 ○話題を決め、情報を集め、話の構成を考えて、スピーチをする。	① 情報の信頼性の確かめ方を理解し、使っている。 ② 「話すこと・聞くこと」において、興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ③ 相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとしている。
文章を批判的に読みながら、文章にも見える方につくことができる。(思・判・表)	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう	○実用的な文章を読み、課題に取り組む。	① 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 ② 「読むこと」において、事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み、書き手の思惑や意図について考えている。 ③ 積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。
理解したり、表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を豊かにすることができる。(知・技)	俳句の可能性 俳句を味わう	○情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読する。 ○俳句についてまとめる。	① 俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 ② 「読むこと」において、文章の構成や表現のしかたについて評価している。

			③	進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
時間の経過による言葉の変化や言葉の理解すること。(知・技)	言葉を選ぼうもっと伝わる表現を目指して	○時代や世代による言葉の変化について知る。	①	時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。
			②	「書くこと」において、相手や場面によって言葉を選んで書いている。
			③	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、試行錯誤しながら相手や場面によって言葉を選んで話そうとしている。
自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用が理解できる。(知・技)	読書を楽しむ「私の一冊」を探しにいく	○さまざまな読書の楽しみ方について知る。 ○書評やポップを書く。	①	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。
			②	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間・社会・自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評にまとめたりしようとしている。
詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもてる。(思・判・表)	挨拶 ――原爆の 写真によせて	○表現の効果について考える。 ○作者は、この詩の中で、どのようなことを考え、伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。	①	比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えている。
			②	「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	詩の構成や表現のしかたについて積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用が理解できる。(知・技)	故郷	○場面や登場人物の設定に着目して作品を読み深める。 ○読み深めたことを踏まえ、作品のもつ価値について批評する。	①	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。
			②	「読むこと」において、「私」が考えている「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。
			③	粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
粘り強く話の展開が予測でき、今までの学習を生かして評価を述べようとしている。	聞き上手になろう	○話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価する。	①	敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。
			②	「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。
			③	

目的や意図に応じて表現を確めて、文章を整える。(知・技)	〔推敲〕論理の展開を整える	○目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整える。	①	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。
			②	「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。
			③	目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確かめ、情報と情報との関係の知識を生かして推敲しようとしている。
文章を読んだり考えたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見ができる。(思・判・表)	人工知能と人間と人工知能と創造性	○内容の信頼性や客観性を確かめながら、文章の要旨を捉える。 ○自分の考えを文章にまとめる。	①	情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。
			②	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
表現のしきたりや資料を適切に引用したりするなどの考えが伝わるようになる工夫ができる。(思・判・表)	多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く	○対象となる事柄の特性や価値などについて、観点を決めて客観的に分析し、自分の考えを書き出す。 ○意見と根拠の関係など、説得力のある論理の展開を考え、文章にまとめる。	①	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。
			②	「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。
			③	粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
進行のしきたりや互いの発言が合意形成に向けて広げたり深めたりできる。(思・判・表)	〔議論〕話し合いを効果的に進める 合意形成に向けて話し合おう	○合意形成の重要性を知る。 ○会議を開き、互いの意見のよいところを生かして合意形成に導く。	①	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。
			②	「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。
			③	合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
理解したり表現したりするために語句の量を増やし、語感を豊かにすることができる。(知・技)	音読を楽しもう 初恋	○言葉の響きやリズムを味わいながら詩を朗読する。 ○語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。	①	言葉の響きやリズムを味わいながら、朗読している。
			②	「読むこと」において、詩の構成や展開、表現のしかたについて評価している。
			③	進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読したり自分の考えを述べたりしている。
歴史的背景などに注意して古典を通して、	和歌の世界 音読を楽しもう	○歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。	①	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。

その世界に親しむことができる。(知・技)	古今和歌集 仮名序		②	「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。
			③	進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
歴史的背景など注意識を古典を通して世界に親しむことができる。(知・技)	君待つと――万葉・古今・新古今	○現代語訳や語注を参考に、和歌に詠まれた心情や情景を想像し、用いられている表現技法について知る。 ○心に響いた和歌を一首選び、鑑賞文を書く。	①	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。
			②	「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。
			③	進んで和歌の表現のしかたについて評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。
歴史的背景など注意識を古典を通して世界に親しむことができる。(知・技)	夏草――「おくの細道」から	○芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 ○心に響く俳句について発表する。	①	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。
			②	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。
理解したり、表現するために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技)	誰かの代わりに	○筆者の考えを読み取る。 ○筆者の考え方について話し合う。	①	理解したり、表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。
論理の展開など読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(思・判・表)	情報を読みとって文章を書こう グラフを基に小論文を書く	○グラフから情報を読み取り、分析する。 ○構成や内容を考えて小論文を書く。	①	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。
			②	「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。
			③	論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえて粘り強く推敲し、学習の見通しをもって小論文を書こうとしている。
自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用を理解することができる。(知・技)	本は世界の扉 エルサルバドルの少女ヘスース 紛争地の看護師 読書案内	○文章を読み比べ、登場する人物の生き方について自分の考えをもつ。	①	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。
			②	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとしている。

文章を読んだ 考えを広げたり 深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(思・判・表)	温かいスープ	○筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。	①	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。
			②	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(思・判・表)	私を束ねないで	○詩のもつイメージを捉える。 ○作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。	①	理解したり、表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。
			③	詩を読んで進んで自分の考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	三年間の歩みを振り返ろう	○三年間の学びを振り返り、その意義や価値を考える。	①	理解したり、表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えをわかりやすく伝わるように表現を工夫している。
			③	粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。
言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	学習を振り返ろう	○小説や説明文，スピーチ原稿を読み，学習課題に取り組む。	①	敬語，具体と抽象など情報と情報の関係，言葉の変化についての理解を深めている。
			②	「読むこと」において，文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもっている。
			③	粘り強く文章や資料を読み取り，今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。

社会科 第3学年 シラバス

1 学習のねらい

- 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する。
- わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培う。
- 国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的な資質の基礎を養う。

2 学習のアドバイス

- ①今まで学習してきた地理、歴史の知識を基礎として、現代の世の中のしくみを学習しよう。
- ②世の中のしくみを知るために、テレビや新聞などのニュースに注目しよう。
- ③世の中の動きを理解し、よりよい世の中にするにはどうしたらよいか考えよう。

3 身につけさせたい力

- ★話し合いの活動を取り入れ、説明したり、発表の力をつけます。
- ★感想や振り返りの場を取り入れ、文章や図などで表現する力をつけます。
- ★身の回りの社会的事象や、歴史について探究する力をつけます。

4 評価の規準と評価の方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	・現代の社会的事象から課題を見だし、意義や役割、相互の関連など理解を深めているとともに諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり現代社会の課題について、公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	・現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
評価の方法	・定期テスト、小テスト、レポートなどで評価します。	定期テスト、ノート、授業中の発言、レポートなどで評価します。	・毎授業の振り返りシート、単元ごとのまとめ、授業中の挙手などで評価します。

5 授業計画

単元名	学習内容	評価の観点	
【歴史的分野】 第6章 二度の世界大戦と日本	① 第一次世界大戦と日本	①	第一次世界大戦後の日本の政治、人々の生活や文化、産業、外国とのつながり等について関心を持ち、時代の特色を理解している。
	② 大正デモクラシーの時代	②	相互に関連付けるなどして近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し表現している。
	③ 世界恐慌と日本の中国侵略	③	現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
	④ 第二次世界大戦と日本		
第7章 現代の日本と私たち	① 戦後日本の出発 ② 冷戦と日本の発展 ③ 新たな時代と日本の世界	①	第二次大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本が建設されたことを理解している。日本の経済や科学技術の発展によって国民生活が向上し役割が大きくなったことを理解している。
		②	事象を相互に関連付けるなどして現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し表現している。歴史と私たちのつながり現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識を持ち多面的・多角的に考察、構想し表現している。
		③	現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
【公民的分野】 第1章 現代社会と私たち	① 現代社会の特色と私たち ② 私たちの生活と文化 ③ 現代社会の見方や考え方	①	現代社会の特色や日本の伝統や文化の意義や影響について理解している。
		②	現代日本に見られる特色や文化の意義や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。
		③	現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第2章 個人の尊重と日本国憲法	① 人権と日本国憲法 ② 人権と共生社会 ③ これからの人権保障	①	人間の尊重についての考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。
		②	我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し表現している
		③	人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第3章 現代の民主政治と社会	① 現代の民主政治 ② 国の政治の仕組み ③ 地方自治と私たち	①	国や地方公共団体の政治について意義を理解している。
		②	政治に関する諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
		③	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている
第4章 私たちの暮らしと経済	① 消費生活と市場経済 ② 生産と労働 ③ 市場経済の仕組みと金融 ④ 財政と国民の福祉 ⑤ これからの経済と社会	①	身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。
		②	個人や企業の経済活動における役割と責任や経済の諸課題について、多面的・多角的に考察し表現している。
		③	市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第5章 地球社会と私たち	① 国際社会の仕組み ② さまざまな国際問題 ③ これからの地球社会と日本	①	国際社会のかかえる諸課題の解決のため世界の国々の協力が大切であることを理解している。
		②	国際社会の課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
		③	よりよい社会を築いていくために、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

数学科 第3学年 シラバス

1 教科の目標

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、物事を数学的に考える力を身に付けること。
また、数学が生活や問題解決に役立つことを知り、数学のよさを理解すること。

2 学習のアドバイス

1, 2年生で学習したことが3年生の内容につながっています。既習事項をしっかりと復習しながら、授業に臨みましょう。
①復習を怠らないこと。
②間違えた問題は正答できるまで繰り返しやり直すこと。
③わからない問題は先生や友達に聞いて解決すること。
④1・2年の学習内容と関連付けて勉強しよう。

3 身に付けさせたい力

★自分の考えを書く力
・ノートを取り方の工夫
★自分の考えを説明する力
・グループに分かれ、説明しあう機会を増やす。
・教え合う活動を取り入れる。
★他者の説明を聞く力
・授業規律を整える。
・他者の意見をメモする習慣をつける。
★計算力
・小テストを反復行う。

4 評価の観点、評価基準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価基準	数の平方根，多項式と二次方程式，図形の相似，円周角と中心角の関係，三平方の定理，関数 $y=ax^2$ ，標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲に着目し，数の性質や計算について考察したり，文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力，図形の構成要素の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，標本と母集団の関係に着目し，母集団の傾向を推定し判断したり，調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとする態度を養う。
評価方法	・定期試験 ・小テスト ・授業中の問題への取り組み等	・定期試験 ・小テスト ・授業中の問題への取り組み等	・授業態度、挙手、忘れ物等 ・小テスト ・提出物

5 授業計画

	単元目標	学習内容	評価の観点	
式の展開と因数分解	・単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること。 ・簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 ・既に学習した計算の方法と関連づけて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明すること。	○式の乗法、除法 ○乗法の公式 ○因数分解 ○式の計算の利用	①	・単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ・簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。
			②	・既に学習した計算の方法と関連づけて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。
			③	・式の展開や因数分解をすることのよさを実感して粘り強く考え、多項式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
平方根	・数の平方根の必要性和意味を理解すること。 ・数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。 ・既に学習した計算の方法と関連づけて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。 ・数の平方根を具体的な場面で活用すること。	○平方根 ○平方根の値 ○有理数と無理数 ○真の値と近似値 ○根号を含む式の乗法、除法 ○根号を含む式の計算 ○平方根の利用	①	・数の平方根の必要性和意味を理解することができる。 ・数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。
			②	・既に学習した計算の方法と関連づけて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現することができる。 ・数の平方根を具体的な場面で活用することができる。
			③	・数の平方根のよさを実感して粘り強く考え、数の平方根について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、数の平方根を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
二次方程式	・二次方程式の必要性和意味およびその解の意味を理解すること。 ・平方の形に変形したり因数分解したりして二次方程式を解くこと。 ・解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。	○二次方程式とその解き方 ○二次方程式の解と公式 ○二次方程式と因数分解 ○二次方程式の利用	①	・二次方程式の必要性和意味およびその解の意味を理解することができる。 ・平方の形に変形したり因数分解したりして二次方程式を解くことができる。 ・解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くことができる。

	- 平方根の考えや因数分解をもとにして、二次方程式を解く方法を考察し表現すること。 - 二次方程式を具体的な場面で活用すること。		② - 平方根の考えや因数分解をもとにして、二次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 - 二次方程式を具体的な場面で活用することができる。
			③ 二次方程式のよさを実感して粘り強く考え、二次方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、二次方程式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
関数 $y = ax^2$	- 関数 $y = ax^2$ について理解すること。 - 事象の中には関数 $y = ax^2$ として捉えられるものがあることを理解すること。 - いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解すること。 - 関数 $y = ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現すること。 - 関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。	- 関数 $y = ax^2$ - 関数 $y = ax^2$ のグラフ - 関数 $y = ax^2$ の値の増減と変域 - 関数 $y = ax^2$ の変化の割合 - 関数 $y = ax^2$ の利用 - いろいろな関数	① - 関数 $y = ax^2$ について理解することができる。 - 事象の中には関数 $y = ax^2$ として捉えられるものがあることを理解することができる。 - いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる。
			② - 関数 $y = ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。 - 関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。
			③ 関数 $y = ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、関数 $y = ax^2$ について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、関数 $y = ax^2$ を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
図形と相似	- 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解することが。 - 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積の比や体積の比との関係について理解すること。 - 三角形の相似条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめること。 - 平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめること。 - 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。	- 相似な図形 - 三角形の相似条件 - 三角形の相似条件と証明 - 平行線と線分の比 - 中点連結定理 - 相似な図形の面積 - 相似な立体の表面積、体積 - 相似の利用	① - 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解することができる。 - 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積の比や体積の比との関係について理解することができる。
			② - 三角形の相似条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。 - 平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。 - 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。
			③ 相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。

円の性質	・円周角と中心角の関係の意味を理解すること。 ・円周角と中心角の関係を見いだすこと。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	○円周角と中心角 ○円周角の定理の逆 ○円の性質の利用	①	・円周角と中心角の関係を理解することができる。
			②	・円周角と中心角の関係をみいだすことができる。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。
			③	・円周角と中心角の関係のよさを実感して粘り強く考え、円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、円周角と中心角の関係を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
三平方の定理	・三平方の定理の意味を理解すること。 ・三平方の定理を見いだすこと。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用すること。	○三平方の定理 ○三平方の定理の利用	①	・三平方の定理の意味を理解することができる。
			②	・三平方の定理を見いだすことができる。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。
			③	・三平方の定理のよさを実感して粘り強く考え、三平方の定理について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、三平方の定理を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
標本調査とデータの活用	・標本調査の必要性和意味を理解すること。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理すること。 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現すること。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断すること。	○標本調査の方法 ○母集団と標本の関係 ○データを活用して、問題を解決しよう	①	・標本調査の必要性和意味を理解することができる。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる。
			②	・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。
			③	・標本調査のよさを実感して粘り強く考え、標本調査について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、標本調査を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりすることができる。

理科 第3学年 シラバス

1 教科の目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習のアドバイス

- ①身近な自然事象と学習内容を重ねて学習する。
- ②実験において基礎的な実験技術を身につける。
- ③正しく安全に観察・実験をする。
- ④ワークで実力をためす。
- ⑤実験や観察から規則性を見つける。

3 身に付けさせたい力

- ①自然の事物・現象に進んで関わろうとする意欲
- ②科学的に探求する能力・科学的な見方や考え方
- ③観察・実験の技能
- ④自然の事物・現象についての理解力
- ★班活動を取り入れる。役割分担を行う。班でまとめたことを書かせる活動を行う。
- ★単元の最初にブレインストーミング(日常生活や他の単元との関連付け)をする。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	正しく安全に観察実験する。 実験器具の正しく操作する。 理科の用語の意味、基本的な知識を適切に理解する。	実験や観察から規則性を見つける。 考える。 実験の結果をまとめて発表する。	理科の学習に興味を持ち意欲的に取り組むことができる。 積極的に発言する
評価方法	・テスト ・小テスト ・授業中のノートのまとめ方 ・スケッチ、グラフ ・パフォーマンステスト	・テスト ・小テスト ・授業中の考察、観察	・授業中の挙手発言 ・ノート、問題集の提出物 ・忘れ物

5 授業計画

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
(1) 自然の事物・現象の中に問題を見出し、目的意識をもって観察、実験を主体的に行い、科学的な見方、考え方を養う。 (2) 正しい器具操作による観察・実験を行い、課題を解決する方法を習得させる。	1 運動とエネルギー	(1) 力の合成と分解 (2) 水中の物体に加わる力 (3) 物体の運動 (4) 仕事とエネルギー	① 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、力のつり合いと合成・分解、運動の規則性、力学的エネルギーを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ② 運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現している。また、探求の過程を振り返っている。 ③ 運動とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
	2 生命のつながり	(1) 生物の成長とふえ方 (2) 遺伝の規則性と遺伝子 (3) 生物の種類の多様性と進化	① 生命の連続性に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類と多様性と進化を理解するとともに、それらの観察、実験に関する技能を身に付けている。 ② 生命の連続性について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化について特徴や規則性を見いだして表現している。また、探求の過程を振り返っている。 ③ 生命の連続性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
	3 自然界のつながり	(1) 生物どうしのつながり (2) 自然界を循環する物質	① 日常生活や社会と関連付けながら、生物と環境、自然環境の保全と科学技術を理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ② 身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断している。 ③ 自然と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
	4 化学変化とイオン	(1) 水溶液とイオン (2) 化学変化と電池 (3) 酸・アルカリとイオン	① 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、水溶液とイオン、化学変化と電池を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ② 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現している。また、探求の過程を振り返っている。 ③ 化学変化とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

	5 地球と宇宙	(1) 天体の動き (2) 月と惑星の運動 (3) 宇宙の中の地球	①身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、天体の動きと地球の自転・公転、太陽系と攻勢を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
			②地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現している。また、探求の過程を振り返っている。
			③地球と宇宙に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
	6 地球の明るい未来のために	(1) 自然環境と人間 (2) 科学技術と人間 (3) これからの私たちの暮らし	①日常生活や社会と関連付けながら、エネルギーと物資、自然環境の保全と科学技術の利用を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
			②日常生活や社会で使われているエネルギーや物資について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の在り方について、科学的に考察して判断している。
			③科学技術と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

音楽科 シラバス

1 学習のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を目指す。

2 学習のアドバイス

- ・心から音楽を楽しむこと。まずは、楽しもうとする姿勢が大切である。
- ・仲間と協力し合い、美しい音楽を作っていくこと。
- ・歌は体が楽器です。正しい姿勢や発声など気を付けること。
- ・上手になりたいという向上心を持つこと。
- ・どうしたら上手くなるのか考え行動する研究心を持つこと。
- ・楽譜を読める、書けるように学習に取り組むこと。

3 身に着けさせたい力

- ・美しいものを聴いて美しいと感じる感性。
- ・楽曲を聴いて理論的に説明できる力。
- ・作曲者の考えを楽譜から読み取る能力。
- ・正しい奏法を身に着けるとともに、音楽で想いを表現する能力。
- ・仲間と協働しながら、音楽表現を生み出していく力。
- ・たくさんの感動を通して、心を育んでいく。

4 評価の観点・評価方法

評価の観点	評価基準	方法例
① 知識及び技能	音楽を形づくっている要素を知覚し学習をすることを通して、曲想や音楽の構造、歌詞の内容などの理解を深め、基礎的な技能（歌唱・器楽：発声や発音、体の使い方など 創作：音の選択や組み合わせ方など）が身についている。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト
② 思考・判断・表現	表現の活動を通して、音楽を形づくっている要素を生かしながら、表現を創意工夫することができている。また、鑑賞の活動を通して、曲や演奏に対する評価、社会における意味や役割、表現の共通性や固有性、などを味わって聴くことができる。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組み、自分の課題を見つけ、それを乗り越えるために努力しようとしているか。他者と教え合い活動などを通して、協力しながら学習に取り組むことができる。音楽を自ら楽しむ心を忘れず、音楽に親しんでいこうとする態度。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト

○第3学年

	教材名	学習目標	評価の観点	
歌唱	・花（共通教材） ・Let It Be ・花の街 ・合唱コンクール ・三送会 ・卒業式	・情景を思い浮かべながら、言葉を大切に して合唱しよう。 ・曲想を生かして表情豊かに歌おう ・歌詞の意味を生かして歌おう ・みんなと歌う喜びを感じよう ・思いを込めて明るい声で合唱しよう ・曲の構成や曲想の変化を生かして、歌 唱表現を工夫しよう	①	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の抑揚、体の使い 方、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を 身に付け、歌唱で表現している
			②	音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質 や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについ て考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている
			③	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽し みながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている
器 楽	・弦楽器 ・リズムアンサンブル ・箏「さくら」	・基本的な奏法を身に着けよう ・曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよ う ・全体の響きを確かめながら演奏しよう	①	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて 演奏する技能を身に付け、器楽で表現している
			②	音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質 や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについ て考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている
			③	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽し みながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている
創 作	・マイメロディー ・レッツクリエイト	・ハ長調の音階を使ってまとまりの ある旋律をつくろう ・音の特徴や重なりを感じてリズム アンサンブルをつくろう	①	音のつながり方や特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿 った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している
			②	音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質 や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについ て考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている
			③	音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働 的に創作の学習に取り組もうとしている
鑑 賞	・ブルタバ ・能「羽衣」 ・ボレロ ・ポピュラー音楽 の歴史	・作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を 味わおう ・能に親しみ、その音楽を味わおう ・音楽の歴史をたどろう ・今の音楽がどのようにできてきたのか知 ろう	①	曲想と音楽の構造との関わりについて理解している
			②	音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質 や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについ て考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共 通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている
			③	音楽活動を楽しみながら、関心をもって主体的・協働的に鑑賞の学習に取 り組もうとしている

美術科 シラバス(学習案内)

1. 学習のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

1学年

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2. 3学年

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

2. 学習のアドバイスなど

美術は日常生活と深く結びついています。普段の生活経験の中で得る知識や感じ方の積み重ねで「美しさやよさの価値観」が醸成されてきます。ぜひ普段の生活のなかで、いろいろなことを自分で考え、自分で表現したり、答えを導き出すなどの習慣を身につけましょう。また授業で与えられた課題には主体的に関わり、最後までしっかり仕上げていくことが大切です。達成感が味わえるように集中して制作に励んで欲しいと思います。

3. 身につけさせたい力

- ★・美術の表現の学習を通して、日常生活との関わりを考え、主体的に課題に関わる知識や技能を身に付けようとする態度を養う。
- ★・美術の鑑賞の学習を通して、日本や世界の美術文化および他の文化に対する威念の価値観を育むとともに心豊かに生活する態度を養う。

4. 評価基準と方法

評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	・用具の安全かつ適切に扱い、表現意図に応じた材料や用具の基礎的技能を生かして表現する。 ・美しさやよさなどを総合的な考えながら自分らしく創造的な工夫をして表現する。	・自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で深く観察し、形や色彩の特徴、よさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて豊かに主題を発想する。 ・多様なものの見方をもって発想し、心豊かに作品を創意工夫しようとする。 ・自他の作品のよさや美しさを感じ、言語活動も含めて表現する。	多様な美術文化に関心をもち、自らの感性を働かせ、対象や表現のよさ、美しさを感じ取りながら意欲的に学習に取り組む。
評価方法	・用具等の適切な扱い。 ・表現意図に応じた基礎的な表現方法など	・形や色の特徴やよさを生かした適切な表現内容。 ・豊かな発想に基づいた表現方法や独創的な工夫など。 ・鑑賞レポートや発言等で作品のメッセージ性などを感じ取り適切な表現をしている。	プリントや作品制作活動、鑑賞の記録などの学習活動の意欲的で主体的な取り組みの様子。

美術科 3学年 年間授業案内

学期	題材名	目的	具体的作品像・イメージなど	主な素材	道具・準備・取りくみ備考
1	水墨画に挑戦	ビデオ鑑賞を通して、水墨画の特徴や表現技法を理解する。	水墨画と日本画、日本画家の作品紹介など		
		墨のかすれ、滲み、明暗のトーンなどの特徴を意識しながら、作品に生かす。	墨の特徴を生かした勢いのある作品	半紙・画仙紙	書道セット・下敷き
	篆刻	篆刻の制作を通して「印章」などの伝統文化への関心を高める。	篆刻にふさわしい文字を選び、各書体のよさを生かした印面表現の作品	高麗石	高麗石、篆刻刀、水やすり、
		印面や持ち手の彫刻制作を通して素材や用具の扱いなどに慣れ、手際よく制作する。	各自の個性を生かした印面のデザインを施した作品		
2	わたしの手から広がる世界	自分の手をデッサンする。表情豊かな表現を心掛ける。	自分の手をしっかりと観察して表現する。	画用紙、鉛筆	参考資料
		手のデッサンをもとに、そこから広がる世界の空想画を描く。	発想を広げて、表現方法を工夫する。	イラストボード	イラストボード、鉛筆、絵の具、色鉛筆など
		作品の鑑賞会をしていろいろな表現方法があることを知る。	友達の作品の良さに気づき、自分の制作に活かす。		作品、鑑賞レポート
3	卒業を迎えて 木彫写真額をつくる	アイディアスケッチをして思い出の写真を効果的に飾る写真額のデザインを考える。	どのようなデザインで何を使って制作するかを考えて計画をたてる。	木彫写真額	彫刻刀、絵の具、粘土、シール、布、絵の具など
		彫刻刀による表現、描画、コラージュなど、自分が好きな表現方法を選ぶ。	小中学校で学んだことの集大成として、自分が好きな表現方法を選んで、計画的に制作する。		
		出来上がった写真額に思い出の写真を飾ってみる。			

保健体育科 シラバス

- 1 学習のねらい 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。
- 2 学習のアドバイス
- 3 身に付けさせたい力

- ① 学習規律を守り、進んで楽しく活動しよう。
- ② 意欲的に課題解決に取り組もう。
- ③ 仲間と協力して取り組もう。
- ④ 自己やグループの課題に合った練習を選択しよう。
- ⑤ 運動の特性を理解し、楽しさや喜びが味わえるようにしよう。
- ⑥ 安全な場所や安全の確保をしながら運動に取り組もう。
- ⑦ 自他の心身の健康や安全に留意しよう。
- ⑧ 健康や安全に関する知識を身に付けよう。

- ① 運動の特性を理解し、運動の楽しさ、喜びを味わうことができるようになる。
- ② 目標設定や課題解決に自ら努力するとともに、お互いに協力し合える態度が見に付く。
- ③ 生涯を通じて、運動を愛好できるようになる。

「賢く・美しく・心身ともに逞しい芝中生」

4 評価基準と評価方法

		① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
体育分野	評価基準	〈第1学年及び第2学年〉 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 〈第3学年〉 選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	〈第1学年及び第2学年〉 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 〈第3学年〉 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	〈第1学年及び第2学年〉 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 〈第3学年〉 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。
	評価方法	知識 ・各運動、領域に関する理解度（定期テスト） ・知識を活用した運動への取り組み方（授業での観察） 技能 ・各運動、領域の技能（実技テスト） ・練習状況（授業での観察）や学習カードを使用した記録や達成度	・各運動、領域の特性や目的に応じた取り組みの仕方、工夫 ・自己の課題を理解し、課題達成へ向けた運動（練習の選択場面など）への取り組み ・自己が発見したことや気づいたことなどを仲間にも伝えたり、仲間と話し合うことができる表現力 ・健康、安全を意識、注意する態度 ※（授業での観察と、学習カードに書かれている内容）	・授業の集合（整列・号令・話を聞く態度）から解散まで、授業の流れに沿った意欲的な取り組み ・用具の準備や後片付け、測定や声かけなど自己の役割を果たす積極性 ・仲間を認め、一人一人の違いに応じた課題や挑戦に対する、援助、補助などの主体的な取り組み ※（授業での観察と、学習カードに書かれている内容）
保健分野	評価基準	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
	評価方法	知識 ・保健の知識、理解度（定期テスト） 技能 ・実習への取り組み状況（授業での観察）	・生活における健康・安全についての課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、適切な方法を選択・判断できるようになる。 ・自己が発見したことや気づいたことなどを仲間にも伝えたり、仲間と話し合うことができる表現力 ※（授業での観察と、保健ノートや学習カードに書かれている内容）	・心と体を一体として捉えた健康の保持増進への積極的な取り組み ・生涯にわたって通じる健康・安全に対する課題解決に向けた自主的な学習の取り組み ※（授業での観察と、保健ノートや学習カードに書かれている内容）

第3学年

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	体づくり運動	(1)体ほぐしの運動 (2)実生活に生かす運動の計画	① 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うことができる。 ② 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができる。 ③ 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ④ 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全に気を配ることができる。
	器械運動	(1)マット運動 (2)跳び箱運動	① マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと、それらを構成し演技することができる。 ② 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。 ③ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 ④ 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を講究しようとし、お互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができる。
	陸上運動	(1)短距離走・リレー (2)長距離走 (3)走り幅跳び	① 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受け渡しで次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して一定の距離を走ること、走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切り跳びることができる。 ② 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 ③ 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを大切にすること、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができる。
	水泳	(1)クロール (2)平泳ぎ (3)背泳ぎ (4)バタフライ	① クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く、速く泳ぐことができる。平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く、速く泳ぐことができる。背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ② 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自分の考えたことを他者に伝えることができる。 ③ 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができる。
	球技 I	(1)ソフトボール	① ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防できる。 ② 自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ③ 球技に自主的に取り組むとともに、フェアプレーを大切にすること、作戦などの話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとし、お互いに助け合い教え合おうとすること、健康・安全を確保することができる。

第3学年

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	球技Ⅱ	(1)バスケットボール (2)サッカー	① ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。 ② 自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ③ 球技に自主的に取り組むとともに、フェアプレーを大切にすること、作戦などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする、お互いに助け合い教え合おうとすること、健康・安全を確保することができる。
	ダンス	(1)創作ダンス	① 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化をつけて即興的に表現したり、簡易な作品にまとめることができる。 ② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ③ ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする、健康・安全に気を配ることができる。
	柔道	(1)柔道	① 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防ができる。 ② 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 ③ 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保できる。
	体育理論	(1)文化としてのスポーツの意義	① 学習内容(1)について理解したことを言ったり、書きだしたりしている。
			② 学習内容(1)について習得した知識を活用し、自己の課題のよりよい解決に向けて思考判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。
			③ 学習活動に積極的に取り組もうとしている。
	保健	(1)健康な生活と疾病の予防 (2)健康と環境	① 学習内容(1)(2)について理解したことを言ったり、書きだしたりしている。
			② 学習内容(1)(2)について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現している。
			③ 学習内容(1)(2)について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。

技術・家庭(技術分野) シラバス

1 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育てる。

2 学習のアドバイス

- ① 安全を意識しながら学習しよう。工具は便利な半面、使い方を間違えると危険な道具にもなります。
- ② 時間や道具を大切にしよう。集団で学習するマナーや決まりを学ぶことも大切な学習です。
- ③ 作業やそれに関わる知識と、自分の生活との接点を考えよう。

3 身に付けさせたい力

- ① 技術にかかわる基礎的・基本的な知識・技術。
 - ② 生活の中にある技術を適切に評価し活用する態度。
- ★ 3年間を見通し、確かな知識・技能を身につけることができる取り組み。
- ・ 作業を通して考える授業。
 - ・ 班活動の充実。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価基準	・ 技術に関わる用語の意味、基本的な知識を理解することができる。 ・ 安全かつ正確に作業することができる。	・ 問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して、実践を評価・改善し、表現することができる。	・ 技術の学習に興味を持ち主体的に粘り強く取り組むことができる。
評価の方法	・ テストの得点の内、知識・技能に関わる項目 ・ プリント ・ 製作品 ・ 技能テスト	・ テストの得点の内、思考・判断・表現に関わる項目 ・ プリント ・ 振り返りシート	・ テストの得点の内、主体的に学習に取り組む態度に関わる項目 ・ 授業中の活動状況 ・ プリント ・ 振り返りシート

5 授業計画 — 3 学年 —

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点	
・ コンピュータについて理解を深める。 ・ 文字や写真などを組み合わせて効果的な資料をつくる。 ・ プログラムによる計測・制御ができる。 ・ 情報社会や経済の発展について自分なりの考えを持つ。	・ コンピュータを利用して学校紹介資料をつくる。 ・ チャットシステムを作って身近な生活の問題を解決しよう。	・ 情報の収集や処理 ・ 情報モラル ・ デジタル作品の構想 ・ チャットシステムの構想 ・ 計測、制御ができるプログラミングソフトの活用	①	・ コンピュータの各部の名称及び構成を理解している。 ・ 計測制御またはデジタル作品の作成に必要な知識を理解している。 ・ インターネットを取り巻く様々な危険について理解している。 ・ 情報モラルを持ち、コンピュータを利用できる。 ・ 適切なソフトウェアを用いて、構想通りのデジタル作品を作成できる。 ・ 設計に基づき簡単な計測制御のプログラムを作成できる。 ・ 校内チャットシステムをつくることができる。
			②	・ 情報に関する技術を適切に評価し活用している。 ・ 計測制御またはデジタル作品の作成方法を工夫している。
			③	・ 情報に関する技術について主体的に粘り強く学習しようとする。

技術・家庭（家庭分野） シラバス

1 教科の目標

生活の営みに係る見方・見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。

2 学習のアドバイス

- ① 自分の生活を振り返り、課題を見つける。
- ② 小学校での学習を再確認する。
- ③ 家族の一員であるという自覚をもち、家庭の中で自分ができるところを積極的に見つけていく。
- ④ 自分なりに工夫をする。
- ⑤ 安全に気をつけて実習をする。

3 身に付けさせたい力

- ① 生活にかかわる基礎的・基本的な知識・技術。
- ② 生活の自立を目指し、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度。
- ★ 3年間を見通し、確かな知識・技能を身につけることができる取り組み。
- ・ 学習を振り返り生活をよりよくするための自己評価カード。
- ・ 自ら考えて作業を進めることができる手順書。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、改善策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。
評価方法	・ テストの得点の内、知識・技能に関わる項目 ・ 確認テスト ・ ワークシート ・ 製作品 ・ 技能テスト	・ テストの得点の内、思考・判断 ・ 表現に関わる項目 ・ ワークシート ・ 授業評価シート	・ 授業中の活動状況 ・ 授業準備の状況 ・ ワークシート ・ 確認テスト ・ 授業評価シート

5 授業計画（3 学年）

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点	
(1) 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解することができる。	1 家族・家庭と子どもの成長	(1) 幼児の発達と生活の特徴	①	幼児の発達と生活の特徴について理解している。
			③	幼児の観察について、工夫し創造し、実践しようとしている。
		(2) 幼児の遊びの意義	①	幼児にとっての遊びの意義について理解している。
			①	幼児とのかかわり方について理解している。
		(3) 幼稚園実習	①	幼児との関わり方について理解している。
			②	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想している。
			③	幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
		(4) 家庭・家族の機能	①	家庭生活と地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。
			②	家庭や家族の基本的な機能について理解している。
		(5) よりよい家族関係	①	家族の互いの立場や役割について理解している。
			①	家族と協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。
			②	家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして加田氏を解決する力を身に付けている。
			③	家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に向けた一連の勝度を振り返って改善し、工夫し創造し。実践しようとしている。

英語科 第3学年 シラバス

1 教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

2 学習のアドバイス

- ① 言葉の勉強はまず声に出す
- ② 他人の発表や発言を良く聞く
- ③ 習った表現で文を作って言えるようにする
- ④ 習った表現で文を書いて書けるようにする
- ⑤ 習った表現を組み合わせ文を作れるようにする
- ⑥ 語彙や熟語を増やす
- ⑦ 予習・復習を徹底する
- ⑧ 教科書を音読する
- ⑨ ワークや問題集で定着を確認する

3 身につけさせたい力

- ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにする。
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるようにする。
- ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	(知識)英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 (技能)実際のコミュニケーションにおいて日常的な話題や社会的な話題について ① 話された内容をとらえる技能 ② 書かれた文章を読んで内容をとらえる技能 ③ ④ ⑤ 事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句を用いて伝えあう・話す・書く技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面や状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について ① 文章を聞いて要点をとらえている。 ② 文章を読んで要点をとらえている。 ③ 事実や自分の考え、気持ちなど簡単な語句や文を用いて伝えている・話している・書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手、聞き手に配慮しながら、主体的に英語で話されていること、書かれていることを聞こう、読もうとしている。また主体的に英語を用いて伝えあおう、話そう、書こうとしている。
評価方法	- 定期テストの成績 - 話すことに関わるパフォーマンステスト	- 定期テストの成績 - 話すことに関わるパフォーマンステスト - 課題英作文	- ノートやレポートにおける記述 - 授業中の発言 - 自己評価シート - 授業中の行動観察 - 小テスト

5 1年間の学習内容 ●これまでの自分のことや社会的な問題などについて、考えを順序立てて伝え合うことができる。

単 元	学習の目標	学習内容（文法）	評価の観点と評価規準の例 （ア知識・理解 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に取り組む態度）
Unit 1 School Life Around the World 学校紹介の記事を読む/記事について意見を発表する	- 世界中の学校生活についての記事から概要を読み取ることができる。 - 記事についての意見・感想を伝えることができる。	◆受け身の文 ◆動詞の過去分詞 ◆let 人＋動詞の原形の文 ◆tell人＋that～の文	ア.受け身の文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ア.記事の概要を読み取ることができる。(R) イ.記事についての意見・感想を発表することができる。(SI)
Unit 2 Our School Trip おすすめの場所などを聞き取る/おすすめの場所について教え合う	- 修学旅行についての発表を聴きとることができる。 - おすすめの場所について聞いたり伝えたりできる。	◆現在完了形（完了用法・経験用法）	ア.現在完了形の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ウ.聞き取ったスピーチについて質問したり、感想を述べようとしている。(SI)
Unit 3 Lessons From Hiroshima 経験や心情を読み取る/読んで感じたことを話す	読んだ内容について、感想を話すことができる。	◆現在完了形（継続用法） ◆現在完了進行形 ◆It...for 人 to～の文	ア.現在完了形の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 イ.人物の経験や心情を読み取り、感想などを発表できる。(R)(S)
Unit 4 AI Technology and Language 投稿文を読む/感想や意見を書く	AIについての投稿文を読み取り、感想や意見を書くことができる。	◆関係代名詞（主格）	ア.関係代名詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 イ.読んだ投稿文についての感想を書くことができる。(W)
Unit 5 Plastic Waste プラスチックの原稿を読む/感想を伝え合う	環境問題についてのプレゼンテーション原稿を読み取り、感想を伝えたり、聞くことができる。	◆関係代名詞（目的格）	ウ.聞き取ったプレゼンテーションについての感想を書こうとしている。 ア.間接疑問文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 イ.ピクチャーカードに合うセリフを即興で考え、発表することができる。
Unit 6 The Chorus Contest 場面や状況を聞き取る/絵に合うせりふを発表する	合唱コンクールについての音声を聴き取り、ピクチャーカードに合うセリフを考えることができる。	◆分詞の後置修飾 ◆間接疑問文	ウ.ピクチャーカードに合うセリフを考え、自身の知識内でできる発表をしようとしている。 ア.「疑問詞＋to＋動詞の原形」の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ア.仮定法の形・意味・用法に関する知識を身につけている。
Unit 7 Tina's Speech スピーチを聞く/スピーチをする	- 人のスピーチの概要を聞き取ることができる。 - 自分のことについてスピーチすることができる。	◆疑問詞 to 動詞の原形の文 ◆仮定法 If I could～の文	イ.今の自分について英語でスピーチできる(SP) イ.大切な人へ宛てた手紙を英語で書くことができる。(W)
Unit 8 Goodbye, Tina 手紙を読む/手紙を書く	- お別れの手紙を読み取ることができる。 - 手紙を書くことができる。	◆仮定法 I wish～の文	ウ.自分の表現の幅で書こうとしている。